

日時：令和6年8月2日（金）10：00～16：00

会場：浜松市福祉交流センター

【全体会・実践発表】

テーマ：「主体性を高める小規模校音楽科の実践」

～生徒が主演 教師が助演 実はしっかりと脚本がある授業～

山間部では生徒数が少なく、合唱を聴く機会のなさやパートのバランスの取りにくさなどの課題がある中で、小規模校ならではの良さを取り入れながら研究されてきました。佐久間中では、合唱指導を通じた環境設定やパートごと表現の工夫について話し合い活動を積極的に

行い、子供たちが自ら気付くための取り組みをされました。春野中では、鑑賞指導において、導入の工夫や教師の声掛けによって音楽的な見方・考え方が広がっていった事例を紹介していただきました。実践から、子供たちが主体となったことで、合唱への意欲や満足度の高さにつながったようです。お二人の先生のお話を伺い、教師が脚本を作った上で、生徒が主体となった活動にしていくことがいかに大切であるかということがよく分かりました。



【合唱講座】A・合唱指導講座

「合唱に下手はいない」～発声から表現まで～

作曲家・合唱指導者の富澤裕先生を招き、3曲を扱いながら合唱指導について教えていただきました。冒頭の「発声の8割は発音で決まる」という印象的な言葉から始まり、発音を大事



にした声の出し方や、音や音程のイメージの仕方を御指導いただきながら、教員が歌って聴かせることや子供への問い掛けの大切さを学びました。また、必要な環境をつくるための具体的な方法を実践し、会場全体が笑顔で温かい雰囲気になりました。実践的で楽しく分かりやすい先生のお話で、歌うことの感動を味わうことができた3時間となりました。

【実技講座】B・音楽鑑賞指導講座

「音や音楽からの実感による音楽鑑賞指導の方法」

武蔵野音楽大学の山崎正彦先生を招き、「音楽鑑賞指導」で教えられることについて、鑑賞曲を聴きながらお話を伺いました。「音楽鑑賞」と「音楽鑑賞指導」の違いから、音楽



を聴くことによつて何を学べるのかを子供たちに理解させることが必要であると分かりました。また、適切な教材を選ぶことや鑑賞時間を十分に確保することの大切さを学びました。子供たちが生涯にわたって音楽に親しむために、音楽鑑賞指導について新たな視点で考えることができました。